

関西・中部地区 (第4回) 文楽観劇会

(国立文楽劇場 平成30年11月11日)

本会に入会したお陰で、毎年一回の歌舞伎、文楽の鑑賞ができ大変感謝している。今回は文楽の鑑賞だが、これで三回目になるだろうか。人形の動作と太夫の語る浄瑠璃、



三味線の躍動感の絶妙さに少しずつ感動を覚えるようになってきた。

最初の演目は、『蘆屋道満大内鑑』全五段の内の「葛の葉子別れの段」と「信田森二人奴の段」で、平安時代の有名な陰陽師・安倍清明の出生譚である。清明の父・安倍保名と恋仲であった榊の前が、姦計に陥れられ身の潔白を示すため自害してしまう。失意に打ちのめされて正気を失った保名が信田の森をさ迷う内に、榊の前に生き写しの妹・葛の葉姫に出会



い、正気を取り戻して心を通わす。そこへ葛の葉姫に横恋慕する悪右衛門が白狐を追って現れる。姫を先に屋敷に帰した保名は白狐を助けたが、大勢の手下を連れて戻ってきた悪右衛門に打ちのめされ、悔しさから自害しようとする。そこへ屋敷に帰ったはずの葛の葉姫が現れて介抱し、二人は保名の故郷・阿倍野へと落ち延びた。そこでのどかな日々を送りながら生まれたのが清明である。

「葛の葉子別れの段」は、阿倍野で平穏に暮らす保名親子三人の前に、葛の葉姫と両親が訪ねて来ることから始まる。長い間保名を探していた親子は、やっと阿倍野の保名を探し当てたとのこと。保名は二人の葛の葉姫の出現に驚き仰天する。一方、白狐が

変身した葛の葉姫は、最早一緒には暮らせないと悟り、我が子・清明を寝かしつけて、ことの経緯を寝耳に語り聞かせる。そして障子に「恋しくば尋ね来て見よ和泉なる信田の森のうらみ葛の葉」と書き残して去ってしまう。

「信田森二人奴の段」は、保名・清明・葛の葉姫が信田の森にやって来て、保名は白狐を探しに森へ入る。そこへ悪右衛門とその家来達が残された葛の葉姫を奪いに襲ってくる。保名の家来の奴・与勘平が駆けつけてこれを追い払うが、別の家来が現れてまた襲う。これを与勘平と全く同じ姿の野干平が追い払う。野干平は白狐の仲間が化けたもの。野干平は、清明と葛の葉姫を与勘平に託して悪右衛門を追いかけて行く。この作品の見所は、三人遣いという一体の人形を三人で扱う至難の業にあるらしい。この舞台では奴が三人遣いである。しかし、葛の葉姫の姿から一瞬にして白狐に早変わりする場面は見事だった。

さて、「信田」といえば油揚げの別名で、狐の好物は油揚げ、という伝承と、この信田の森の伝説が絡み合っ、稲荷ずしを信田寿司といい色んなものを油揚げに巻いて煮込んだものを信田巻きという。

次の演目は、『桂川連理柵』の「六角堂の段」と「帯屋の段」で、こちらは帯屋主人である律儀な婿養子・長右衛門と夫思いの妻、長右衛門の恩人の十四歳の



娘と夫のふとした過ち、帯屋のお店を乗っ取ろうとする隠居の後妻親子の姦計などを交えた悲恋の人情話で、長右衛門苦渋の心中の場面は貫い泣きしたが、紙数の関係で今回は省略させて頂く。

(平岡 照祥・記)